【一日目】出会い。固く、緊張感のある雰囲気で。

/城郭内の研究室

SE　ノック音

どうぞ

SE　古びたドアの開く音

定刻通りですね。今日から研究室に配属された、ええと……。
そう。名乗ってくれてありがとう。あ、自己紹介は結構。

知っての通り君の前任者がここを止めてしまったので、
今日から君には僕の研究の補佐を担当してもらいます。

文字、読めますよね？　じゃあそこの用紙に仕事内容を書いておいたから、確認して。
読み終わったら声かけてください。早速頼みたい仕事もあるので。

SE　紙のめくれる音

/メモの内容（書き言葉なので一人称「私」）

研究室にようこそ。
ここでは主に、王国で認可されている魔法を用いて
作物の促成栽培や農薬の調合を行っています。
目的は領内の食糧自給率の改善です。

私たちが祖先より受け継いだ領地は、工芸品や冬の間に保存した氷の輸出などが盛んです。
しかし土地が痩せている分、食物は近隣の領地から多く輸入する必要があります。
先代伯爵、つまり私の祖父の代から「領民が飢えることのないように」と
魔術的な観点による作物育成に力を入れてきました。

この研究室は叔父が亡くなって以来閉鎖されていましたが、
留学を終え、三年振りに領地に戻ってきた私が引き継ぐことにしました。

← 十年ほど をカット

補佐となるあなたに一切の危険はないので安心してください。
……城内の若者の間で「怪しい研究をしているのではないか」と噂されているのは私も把握しています。

また、特別難しい作業も頼みません。
文字の読み書き、計算、農作業、調理、その他雑務。
これらができれば誰でも行える仕事のはずです。

最後に二点、お願いです。
研究室にある様々な資料は僕が前任者から引き継いだものです。
大事に扱うよう、心がけてください。

そして、農薬の調合レシピは機密情報です。
それを作るにあたり必要な魔法陣、呪文、薬品も、
決して持ち出したり、誰かに教えたりしないでください。
研究室での業務内容を問われた場合、
「指定の薬品を混ぜ合わせ、加熱している」とだけ伝えてください。

SE　紙のめくれる音

/対話

読み終わりましたか。質問は？

……え、僕についてですか？　現伯爵の次男。成人したのは二年前。
兄が爵位を継ぐことに関し、異論なし。以上。
個人情報なので、もう良いです？
僕も君について何も問いません。あ、でも一点だけ。
生のミニトマト、食べられますか？
ええと、その、昨日収穫した分があるのですが……

SE　机に何かを置く音

春から秋にかけてはこちらの栽培や改良を行っています。
栄養価が高く、小さいため手軽に食べることができ、夏は水分補給にも適している。
環境さえ整えばたくさん収穫できる、優れた野菜で……

SE　説明を遮り、ヒロインが何かを食べる音

あ、そのまま食べた。(呟くように)
……美味しい、ですか。そうか、それは、良かった。

実は僕、ミニトマトの改良に取り組んでいるものの生のトマトは子どもの頃から苦手で……。
トマトをペースト状にして肉や他の野菜と煮込み、パスタにかけたものは好きなのですが……。
(照れ隠しの咳払い)

と、とにかく。今日は甘みを増すよう交配させた「紅玉(こうぎょく)」と、

寒さに強い環境でも育つよう土から改良を重ねた「星あかり」。
収穫済みのミニトマト二種類の食べ比べをしてもらいます。

次の改良に活かすため、僕の質問には言葉を尽くして答えてください。

1347 字（城郭、からカウント）

【二日目】親密になりつつある。一日目よりは柔らかい雰囲気で。

/城郭内の研究室

SE　何かが煮込まれている音

それは、トマトソース？　酸味が僕の研究室にも広がって来たから……。
別に、においは平気です。気を遣ってくれてありがとう。

……君が来てから一ヶ月。ミニトマトの試食だけでなく、
調理や調合でもずいぶん助けられてきましたね。
手際のよさと、物事を見通す理解力の高さ。
きっと君も子どもの頃から家庭教師に高等教育を受けてきて……
おっと、すまない。個人情報は訊かない約束でしたね。

……教えてくれるの？　そうか、それなら互いの業務に一区切り着いた頃にしませんか？
君が用意してくれる焼き菓子、すっかり気に入ってしまって。
今日も焼き菓子、用意してくれたのかあ。
それなら紅茶は僕が淹れます。

……うん？　私が淹れた方が美味しいはず、だって？
言うようになりましたね、君も。
そもそも君が淹れた紅茶が美味しいのは分かっています。
僕にだって研究以外にもできることがあるのだと、知ってほしい。
ずっと昔、叔父に褒められたんです。まるで熟練の給仕係のようだ、と。
（叔父を思い出し、寂しさから息を飲む音）

……すみません。一旦研究室に戻ります。お茶会、楽しみにしてますね。

SE　お茶を注ぐ音

さあ、訊かせてください。君は僕が留学中にこの城に仕官したそうですね。
研究室に配属される前は厨房係や給仕係も担当したことがあると。

……ふうん、「器用貧乏」などという表現で謙遜する必要はありません。
この研究室において、君は大いに活躍しています。

促成栽培の研究補助だけでなく各種野菜の収穫も行い、
僕を気遣って甘味も用意してくれる。

実は今までここに配属された者たちは、その……
手や衣類が泥だらけになる畑仕事を嫌ってね。
手指が汚れるからと、採れた作物を畑から研究室に運ぶのすら断られたこともありました。

僕が君に媚びを売る理由がないのは、分かりますね？
これは君への正当な評価であり、僕の感謝の言葉です。
いつもありがとう。これからも、どうぞよろしく。

810 字（城郭、からカウント）

【三日目】兄にからかわれて照れ笑い/叔父の話題ではしんみりと

/城郭内の研究室

SE　お茶を注ぐ音

涼しくなると促成栽培用の薬品を土に混ぜたり魔法を唱えたりしても、
ミニトマトの成長は緩やかになっていくね。
今咲いている花が実り、色付くかどうかも分からない。
ごめん、休憩時間なのに研究の話をして。

……え？　聞いてくれるの？
いや、後にしよう。休憩時間と就業時間のメリハリを付けた方が良いと
助言してくれたのは、君だからね。

そういえば……僕、昨日兄上から「最近雰囲気が変わったな」と言われたんだ。
君とは三ヶ月ほどの付き合いだけど、どう思う？
子どもの頃に比べれば、これでも多少社交的になったとは思うけれど。

……うん？　柔らかい雰囲気に見える？
ああ、そうか。きっと兄上もそう言いたかったのかな……。
実は、その……。ええと、今から話す件において君に迷惑が掛かっていないかどうかの
確認も兼ねて……だから兄上の言葉をぼかさずに伝えるけれど……
（咳払い）僕の雰囲気が変わったのは、こ、恋をしているからで、
その相手が……君なんじゃないか、と……。

ごめん！　そんな顔しなくても！（ヒロインが照れて主人公も照れる）
兄上は昔から僕をからかう癖があってね。

今年はミニトマトが想定以上に収穫できただろう？
夏の間僕の機嫌が良かったから、兄上はそれを面白がっている。きっと、そうだ。
（恥ずかしいので恋心を否定。あるいは、まだ自身の恋心に気付いていない）

……別に、仲が悪いわけじゃないよ。兄弟ってそんなものじゃないかい？
家督を争って城内はおろか領内までも派閥化して潰し合う兄弟の話を耳にすると、
他人事ながら心苦しく思ってしまうよ。

前伯爵……お祖父様はきっと、兄弟二人で領地を支えていきなさい、という意図をもって
叔父上に「魔法を用いた栽培事業」の役目を与えたのだろう。
僕が物心ついた頃お祖父様はご逝去されたけれど、
いつも僕の手を優しく握ってくれたのをなんとなく覚えている。

兄上は人の上に立つのに向いている性質だし、父上から「領主の務め」に関し直接学んでいる。
僕は次男だから、昔から自由で気楽だった。
家督を継ぎたいなんて一度も思ったことがない。
それは叔父上……父上の、三つ年下の弟にあたる方が僕の行く道を示してくれたから。

僕が留学中、叔父上は病に倒れて……。
本当は留学後、叔父上の補佐をしつつ徐々に研究を引き継ぐ予定だったんだ。
僕は領地に戻ってきて父上に直訴した。
叔父上の研究室をすぐに継がせて下さい、と。
この研究室だけでなく、叔父はたくさんのものを僕に与えてくれた。
僕も叔父上のように、いつか領主となる兄上を支え、領民たちが穏やかに生活できる環境を整えたい。

……こんなに、何かを熱く語るのなんて久し振りかも。
どうしてだろうね？　（ヒロインの優しさにほだされたから）

ミニトマトは叔父上の好物の一つだった。
君、今日も収穫直後に摘まみ食いしただろう？（軽く笑う）
いや、良いんだ。美味しいならそれで。

ねえ、ここで採れた野菜をいくらでも食べて良いから……
どうか君は、僕の前からいなくならないでね。

僕は素直になれないんだ！という台詞は説明的すぎるので、主人公の寂しさを匂わせる感じの流れにしました。

1238 字（城郭、からカウント）

【四日目】ヒロインとの対話は【一日目】のように固く/独白は切ない感じ

/城郭内の玉座等

（一人言）
父上が僕だけを呼び出すなんて、珍しい。
どんな用件だろう？
今年の促成栽培の成果は上々だったから、お褒めの言葉でもいただけたら嬉しいな。

SE　ノック音
SE　古びたドアの閉まる音

失礼いたします、父上。
（間/父の前では一人称「私」）
……なんと。それは……、ですが私は……、いえ……、承知いたしました。

SE　古びたドアの開く音（父との会談を終えた）

/城郭内の研究室

SE　古びたドアの閉まる音

（気だるい声）……おはよう。今日もよろしく。
日の高いうちに農園から収穫を……。

え？　疲れてるんじゃないか、って？
いや、元気ですよ。

無理して笑っているように見える？
……はあ。仕方ありませんね。
少し話をしても良いですか？
不確定事項なので、この話は内密に。

（緊張感のある声）兄上に縁談が持ち上がりました。
詳細は伏せますが、お相手は子爵のご令嬢。
兄上の元に嫁いでくる心積もりだそうです。

そのご令嬢には妹君がいらっしゃる。
妹君と僕の年頃が近いと知った子爵様が僕に婿入りしないか、
とご提案なさったと聞いています。

……祝ってくれないのですね。
無理もない。僕が研究室から居なくなれば、
君は新鮮な野菜を摘まみ食いできなくなってしまう。
……ふふ、その、冗談です。

父上の話には二つ返事で承知しました。
今まで僕が自由に過ごせたのは父上の寛大な御心のおかげです。
子どもの頃から培ってきた知識を誰かのために役立てることができるなら、
どこででも務めを果たします。

まだ父上に伝えていませんが、僕はこの研究室を君に継いでほしい。
君には才能があります。きっとこの領地のため大いに活躍してくれるでしょう。

……いや、ですか？
ここまで二人で努力を重ねてきたではありませんか。
せめて僕が研究成果を書物として世に送り出すまでは、君に助力を……

トークルームに貼った嫌味な台詞例は「このキャラにしては幼いかな？」と思ったので「淡々と研究の話をする」に変更しました

SE　掛ける足音
SE　古びたドアの閉まる音（出て行くヒロイン）

……行ってしまった。
そんなに急いで収穫しなくても問題ないのに。

それにしてもいつも晴れやかなあの子の顔が、あんな風に曇って……。
僕がここからいなくなるからだろうか。
あれは研究室が閉鎖されるかも知れないと、それを危惧した表情？
それとも、僕の結婚に動揺して？

いつか僕にも縁談が持ち上がるとは考えていたけれど。
まさか研究室を継いで一年も経たぬ間に、あんなに遠い地に婿入りすることになるなんて。
来年試したい計画が山ほどあるのに。もう少しで形になりそうな理論も残っている。
それに僕は、あの子のことを……（好き）。

あれ、机に何か置かれて……。

SE　籠のようなものがごとごとと揺れる音

今日も焼き菓子を作ってくれていたのか。
僕のために。
……このままでは駄目だ。
もう一度父上にお話ししてみよう。

1118 字（城郭、からカウント）

【五日目】父との対話では堂々と→驚き（結婚しなくていいの！？）/
ヒロインへの告白はハキハキしつつ、【四日目】の独白の切ない（君とは離れたくない）イメージ。敬語が崩れていき、心の距離も近くなっていく感じ。

/城郭内の玉座等

失礼いたします、父上。
先日の縁談の件でご相談です。

促成栽培の研究にて今年の春から秋にかけ、手応えを感じるほどの成果を得ることができました。
作物の育成や農薬の調合理論を分かりやすく整理し公布すれば、
領内の食糧事情はより良くなるかも知れません。
私には研究成果を領内に広める責任がございます。

私もいつか、どなたかと結婚するのだろうと漠然と考えておりました。
ですが、今私が子爵様の元に婿入りしては、この研究を伝える者がいなくなってしまいます。
どうか今一度、猶予をいただけませんでしょうか。

……いえ。結婚したくないわけでは、ありませんが……（歯切れの悪い言い方）
もし私が早急に婿入りの手続きをしなければならない場合、
促成栽培の研究に関しこの半年間補佐を務めた女性を私の後任として推薦したく思います。

彼女は泥だらけになって私の作業に助力してきた、やる気のある人物です。
彼女は野菜好きで料理上手。仕事への責任感があり、私の心身の健康にも気を遣ってくれています。
叔父上が残したミニトマトの種は、今年たくさん実を着けました。
それは私たちの努力の結晶です。
祖先より受け継いだこの土地をより豊かにしたい、という私の理念を彼女はよく理解しており……。

……え。私の縁談は、なし……？
それはまた、いかがなさったのでしょう。
……かの御令嬢は、歌や器楽に造詣の深い相手を探している……？
私は、どちらも得意ではありませんけれど……。
兄上は私の即答もあり、縁談がすぐにまとまりそうだと言われていましたが……。
もしかして、私の勇み足だったのですか？

ち、父上！　笑わないで下さい。
兄上はまた僕をからかって……（一人言っぽく/一人称が戻る）

それでは私が引き続き、促成栽培の研究を進めてもよろしいのですね？
（父から息子へ褒め）
……身に余るお言葉をいただき、ありがたく存じます。

ええ、はい。承知いたしました。
叔父上の遺産、これからも私が大切に引き継ぎ世のため人のため尽力いたします。

……補佐の件、ですか。
父上、今回の縁談を機に私は覚悟を決めました。
もちろんお相手と心が通じ合えば、という条件付ですが……
いずれ、我が伴侶として彼女を父上の元に連れて参ります。

/城郭内の研究室

今日も収穫作業への助力ありがとうございました。
休憩時間には少し早いのですが、君に伝えておくことがあります。

SE　お茶を注ぐ音

紅茶も準備しました。どうぞ。

僕は君に謝らなければなりません。
縁談の件は僕の誤解でした。
お相手と目されていた方は、僕には興味がおありでない様子。
研究室を君に引き継がなきゃいけないなどと、
勝手な予定を立ててしまい申し訳ありません。

……そ、そんなに笑わないでください。
振られたわけではないと思うのですが。

僕だって、この縁談をお断りするつもりでした。
「結婚したくない」と直截に申せば角が立つので「今ではない」と理由を付けて。

僕はこの地で研究を続けたい。
祖先が大切に守ってきた人々と場所で、皆がより安心して生活できる基盤を作りたい。
そのために、僕には君が必要です。
研究補佐という意味だけではありません。

僕は君の明るさにずっと励まされてきました。
手が汚れるのを厭わず畑に入っていく姿にも、
美味しそうにミニトマトをほおばる笑顔にも、
紅茶を飲んで一息つく横顔にも、
いつの間にか惹かれていたのです。

縁談がなければ僕は君への想いに気付けなかったかも知れない。
もし君が許してくれるなら私的な時間も過ごせたら良いな、と思っています。

ああ、良かった……！　君も、僕と同じ想いだったんだ。
いつか僕と（結婚）……いや、それはまたの機会にしよう。
君と出会えた幸運に感謝するよ。
いつも僕を支えてくれて、本当にありがとう。これからも、どうぞよろしく。

1540 字（城郭、からカウント）

→1347+810+1238+1118+1540=6053　各話の前書きをカットした文字数。
（一人言）や　SE　のような文字もカウントしていますが、
おそらく台詞部分だけで 5000 字は超えたのではないでしょうか。

※10/7　「研究所」と「研究室」で表記ブレしていたので「研究室」に統一しました。
※【一日目】【二日目】の一部を直しました。テキストボックスで追記済みです。
※全体的に仕事の話の割合が高くなった気がします。【五日目】はもっと恋人同士になりそうな二人の台詞を増やす方が良いでしょうか。加筆も可能です。
※カタカナ語を極力使わず、主人公の真面目で冷たい雰囲気に合わせ固い文体にしています。「この言葉は視聴者にとって分かりづらい・聞きづらいかも」という部分があれば、柔らかい雰囲気に直せます。